

五戸総合病院での一か月を終えて

順天堂大学浦安病院
臨床研修医 2 年目 新井 雅史

2019 年 11 月、外科のレジデントとして五戸総合病院で研修をさせていただきました。外科の安藤院長、小林先生をはじめとして、五戸総合病院の職員の皆様には格別の配慮を賜り、感謝申し上げます。

私は東京、足立区北千住という下町に生まれ、都会の喧騒の中で育ってきました。そんな私にとって、青森三戸郡五戸町という土地は空間的、そして精神的にあまりに遠い土地であり、一か月という短い時間でありましたが、そのような土地に居住するというのは初めての経験でありました。また、職場としても入学以来、順天堂大学の系列病院しか見たことはなく、非系列病院、それも地域病院で働くというのもまた、初めての経験でありました。結果として、この一か月の経験は自分にとって重要なものであったと感じております。

五戸総合病院・外科では手術はもちろん、そのほかにも化学療法や終末期医療など幅広い分野・領域で治療しており、大学病院にはなかなかない地域医療の特性を感じました。自分が想像していたより多くの、多岐にわたる症例があり、大変勉強させていただきました。また、コンサルトなども週に数回しか該当科の医師がいなかったり、他の遠い専門治療を行っている病院に紹介をしなくてはならなかったりすることがありました。大学病院では各々専門性が独立している中、地域病院では領域横断的に診ることが要求されており、なかなか身近に感じてはいなかった、医師不足や地域医療の問題点の一端も垣間みえました。そのほかにも胸部単純 X 線写真・マンモグラフィー・エコーなどの検診も行っており、その読影の業務は来年から放射線科に勤め、それらの資格が必要とされる私にとって、それらを勉強するきっかけとさせていただきました。

総じて、五戸総合病院・外科での研修は私にとって大変実りのある格別のものでありました。一か月と短い間ではありましたが、五戸という土地で学んだ、感じ取ったものを糧にして、今後の医師人生を歩んで行こうと思います。五戸総合病院の皆様、貴重な経験をありがとうございました。また機会がありましたら、青森、そして五戸を訪れようかと思っています。